

C F T ニュース & 息抜き（１１月）

全日本コーヒー公正取引協議会（コーヒー公取協）に寄せられた問い合わせなどを、トピック形式で毎月リリースします。参考になれば幸いです。

１．２０２５年１０月の気になる問合せ

- （１）レギュラーコーヒー及びインスタントコーヒーの表示に関する公正競争規約施行規則の「第３条（４）イ」において 「カフェインを９０パーセント以上除去したコーヒーにあっては「カフェインレスコーヒー」、「デカフェネイテッドコーヒー」等と表示する、とあるけれども、カフェイン除去率が９０パーセント以上となった理由を教えて欲しい。

「全日本コーヒー公正取引協議会 その設立事情と運用の歴史」創立 20 周年記念 平成 24 年 6 月に発行された冊子にはカフェインレス、デカフェについて「外国は 97%/99%カットが法定基準」とあるけれど、日本の規約では「90%以上カット」となったとあるが、この背景、根拠があれば教えて欲しい。

⇒ コーヒー公正競争規約は、カフェインレスコーヒー又はデカフェネイテッドコーヒーと称する場合は、コーヒー生豆からカフェインを 90% 以上除去したコーヒーとしています。

カフェインの除去法はコーヒー生豆を、①水につけてカフェインを除去する方法、②化学薬品を使用して行う方法、③炭酸ガスを使用し超臨界技術を使用する方法、などがありますが、②の化学薬品を用いるカフェイン除去は食品衛生法で認められていません。

通常、日本で販売されるレギュラーコーヒーは 95% 以上カフェインが除去されていると理解しています。会員社の大手市販品は 97% 以上除去しています。

コーヒー公正競争規約制定時、コーヒー生豆ベースで 90% 以上としたのは、欧米のように化学薬品を使用してのカフェイン除去が食品衛生法で認められなかったからです。今も食品衛生法は化学処理を認めていません。

(2) 「コロンビアブレンドコーヒー」名称の製品を検討している。

コロンビア産コーヒースプレモ35%使用と最高等級豆使用と表面に記載したいと考えている。裏面にコロンビア産コーヒースプレモについて説明を記載する考えである。このような考えで製品化する場合、何か問題があるか。

⇒ コロンビア産コーヒーの輸出等級最上位のスプレモを35%使用したブレンドコーヒーであれば、使用量35%と表面に記載されることは問題ない。ただ、最高級とされるとその説明が必要になってくるのでないか。コーヒー輸出国の輸出等級は当該国の豊凶で変更されることもあり、注意が必要。

一般消費者はスプレモと言っても理解できない方が多いと思うので、スプレモについて裏面に説明書きを記載されることは是非行っていただきたい。

丁寧な説明書きをされれば問題ない考える。

(3) 日本スペシャルティコーヒー協会主催の展示会に【玄米デカフェ】なる名称で商品を販売されている事例がありました。

原料は「玄米」を焙煎したものでコーヒーは一切入っていない商品です。商品名の【デカフェ】なる名称が気になり、コーヒーと何ら関係の無い製品に「カフェ＝コーヒー」が付いている事に消費者庁やコーヒー公正取引協議会の見解等をお聞かせいただけると幸甚です。

⇒ コーヒー公正取引協議会は会員組織であり、会員社であれば是正措置を求めることが可能ですが、非会員社については協議会としての対応は困難です。

本件については、展示会会期中「玄米デカフェ」名称はおかしいのではないかと指摘がありました。その問いに対しては以下のように応えました。

日本政府は国際コーヒー機関に加盟しており、2022年国際コーヒー協定は「コーヒーでないものをコーヒー名称で販売しない」よう求めており、外務省はコーヒーの大部分が途上国で生産されていることに留意し、先進国である日本がコーヒーでないものをコーヒー名称で販売することは避けるよう求めています。(外務省ホームページ参照)

玄米にはカフェインは含有されていないと考えられるので、含有されて

いないものを焙煎して「玄米デカフェ」とデカフェコーヒーイメージで販売することは景品表示法の優良誤認を指摘されるかもしれません。

いずれにしても消費者が疑義に思うかが重要と考えます。

2. コーヒーを巡るいろんな状況

先日、CFT 子の高校の在京同期会がありました。故郷・富山からの参加者があり、最初に言われたのは「コーヒー豆は安くならないのか？高齢者の楽しみの一つは喫茶店で友と駄弁ることだが、1杯400円が500円になり、店はこの値段でもきつい、と言っている。何とかならないのか。」でした。国際コーヒー価格は高値圏にあり、日本の港に着く価格も1～9月で対前年同期比5割強上昇している旨伝えました。問いかけた二人はリッチマンで1杯千円でも問題ないのですが、喫茶店へ行くとよく聞く話ということで話してくれました。(年寄りの楽しみを奪いつつあるとは知りませんでした。)

この国際コーヒー価格の上昇でコーヒー消費国のコーヒー価格は上がっていますが、特に日本は円安の影響が消費に影響し、国際コーヒー機関(ICO)は2024年の国別年間一人当たり消費量を日本は3.2キログラムと対前年比変わらずですが、2019年の3.6キログラムと比べると11%強の減少です。総量では2023年が408千トン、2024年が393千トンとなっています。一人当たり消費量が変わらなくとも人口減が市場を縮小させています。事業者にとり辛い状況下にあります。

相場商品は需要と供給で価格が決定されると習ってきましたが、近年の金余りは膨大な過剰流動性という投機資金が流れ込むほか、世界のコーヒー消費国の為政者の気ままな関税政策と発言で相場が揺れ動いています。CFT 子のコーヒー業界18年で一番長い天井相場となっています。

コーヒー生産国の国内消費は伸び続けています。年間一人当たり消費量はブラジルが2019年の6.26キログラムから2024年に6.56キログラムへと毎年伸び続けています。コロンビアは同期間2.28キログラムから2.57キログラムとこれもこの期間伸び続けています。ベトナムも同期間2.32キログラムから2.91キログラムへと伸び続けです。コーヒー輸入消費国の消費が凸凹するのと違い生産・輸出国は安定的に伸びているようにみえます。

コーヒー飲用はCFT 子のような高齢者には肝臓機能の低下を防ぎ、利尿を促進してくれるのでないかと思っています。以前、国立がん研のコホート研究でコーヒー飲用が肝臓がんを防ぐ効果があるのでないかという研究発表がありました。飲食と健康にはそれなりの関係があると信じていることと、コーヒー大好きなので飲まずにはられません。

最近、中国との軋轢が報じられていますが、古代から漢字などの中国文化などを受入れてきた日本だから冷静慎重に対応するのがよいのではないのでしょうか。今回の中国外交官の発言に意図があるとすればなおさらです。

770年に中国でなくなった阿倍仲麻呂の死を悼み李白は、「哭晁卿衡」（晁卿衡 ちょうけいこう を哭す）という七言絶句を詩っています。「晁卿衡」は阿倍仲麻呂の中国名です。玄宗皇帝の頃の唐は今と異なり世界に開かれた能力主義の国であったように思います。中国の歴史は海を閉ざすことはあっても、陸路は殆ど閉ざしていません。残念ながら今の中国はどこでどのような理由を付けて旅行者を捕まえるかわからない国になったように思います。

中国雲南省産のコーヒーは美味しいのですが……。

（2025年11月13日記）